

# 授業改善プラン

|     |          |     |           |
|-----|----------|-----|-----------|
| 地域名 | 東上総教育事務所 | 学校名 | 東金市立鴫嶺小学校 |
|-----|----------|-----|-----------|

## 1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 令和3年度と令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果を比較すると、「書くこと」については、正答率が伸びていた。「読むこと」には課題があり、「書くこと」と複合的に指導していく必要がある。
- 児童の意識調査から、「学習をふりかえり、次のめあてをもつこと」に課題があることがわかった。

## 2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- ふりかえりを生かした魅力的な学習課題が設定できれば、自ら考え主体的に学ぶ児童が育つであろう。
- 目的に合った表現の仕方について話し合う場を設定すれば、互いに表現を磨きあい表現力の向上が図れるであろう。

## 3. 具体的な実践

○第2学年『『2年2組の町たんけん おもしろいもの見つけたよブック』をつくってしらせよう!』【別添資料1】  
「見いだす」の場面で、前時の児童のふりかえりを模造紙に書いて提示することで、学級全体で共有し、児童の思いを生かして学習課題を設定することができた。児童は、町たんけんで見つけたことを伝えるために、どんな組み立てにしたらよいか、粘り強く考えることができた。

○第3学年『『食べ物のひみつブック』をつくろう!』【別添資料2】  
モデル文を提示する際、着目するポイントを明確にしたことで、言葉による見方・考え方を働かせながら説明文を書くことができた。「まとめあげる」の場面では、チェックシートとふりかえりの記述が一体になったカードを活用した。このカードにより、児童は付いた力を明確にし、次の学習へのめあてをもつことができた。指導者は、ふりかえりの記述から友達との学び合いの様子や児童個々のつまずきなどを把握し、指導や評価にいかすことができた。

○第5学年「発信しよう!鴫嶺小SDGs」【別添資料3】  
推敲の授業では、「広げ深める」の場面で、「説得力のある意見文にしたい」という目的を持ち、「双括型になっているか」ということに焦点を絞って話し合いをした。友達に相談したいことを黄色の付箋に、友達へのアドバイスを青い付箋に書くことで、互いの考えが理解しやすくなり、効率的に話し合うことができた。また、推敲した部分を半透明な付箋に書いたことで修正前後を比較することができ、児童は自分の文章がよりよくなったという確信を得ることができた。

## 4. 成果

- ふりかえりを意識した授業づくりにより、児童は自分の学びと向き合い、学習への見通しをもつことができた。
- 前時の児童のふりかえりを授業の導入で提示し共有することで、児童の思いをいかした学習課題を設定することができた。
- 着目する視点を絞って文章を書いたり話し合ったりすることで、自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫することができた。

### ◆担当指導主事から（東上総教育事務所 指導主事 宮田 利絵）

○令和3年度の取組を基に、さらに研究のねらいを焦点化して仮説検証授業を展開していた。適切な言語活動の設定、充実した振り返り活動、視点を明確にした対話等により、豊かな学びが展開されると共に、指導と評価の一体化が進められていた。主体的に考え、生き生きと表現する児童の育成が図られていた。